

開幕戦を終えて 51 選手のコメント紹介 ①



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校

新聞部

彦根市金亀町4番7号

本校は8日、波佐見高校との初戦で甲子園初勝利を収めた。これから3枚にわたって初戦を終えた選手のコメントを紹介する。

1 松井拓真君



主将の松井拓真君(3-5)は甲子園での初勝利について「『後半が勝負』と言ってここまで来たので本番もそのスタンスを貫けた。最後まで諦めなかったことが勝利に繋がったと思う」と振り返った。また9回裏に、代打として出場

したときのことを「公式戦で代打としての出場は初めてだったので驚いた。先頭打者なので役割を果たさそうと思って臨んだ。赤色に染まったアルプス席から力をもらった」と心境を話し「相手ピッチャーとの相性がよく、控えの中で一番打てるだろうと言われ、期待に答えなければと思った。実際最初の一球を見て打てると思ったので、2球目で思いっきり振った結果、安打になった」と明かした。次の試合に向けて「今回は良い経験ができた。集中力を持って次の試合も良い状態で臨めるようにしたい」と語気を強めた。

2 條野正宗君

捕手の條野正宗君(3-7)は「入部したときから甲子園で勝つことが目標だった。達



成できて素直にうれしい」と微笑んだ。「波佐見高校のピッチャーは滋賀にはいないような選手で、レベルが高かった。4番の本塁打など力のある打者が多く抑えるのに苦労した」とも打ち明けた。また9回裏の心境を「代打が松井だと決まったとき、絶対出塁してくれないと思った。負けるイメージはなく、最低でも延長戦に持ち込めると思った」と話し、2回裏の自身の内野安打について「5番・6番が続いて打ってくれたので最低限のことをしようと思った。内野安打になってよかった」と感想を話した。「増居は本調子ではなかったが、増居なら最少失点で抑えてくれると思ってた。『自分を信じてまっすぐ投げてこい』と声を掛けた」と振り返った。次戦に向けて「初戦は増居のボールを後ろにすかしてしまったので、次はそうならないように改善したい」と反省し「一試合ごと

3 吉本孝祐君

に集中して勝ちたい」と意気込んだ。



一塁手の吉本孝祐君(3-4)は「東高の甲子園初勝利を達成できてよかった」と顔をほころばせた。4回裏の本塁打について「打った瞬間はフアールだと思ったが、スタンドに入ったのでよかった。まさかホームランが打てるとは思わなかったのでうれしい」と頬を緩めた。また9回裏の心境を「先頭打者の松井が意地で安打を打ってくれた。松井は出塁してくれると思ってた」と振り返った。そして次の試合に向けて「今回は相手にバントを決められてしまったが、防げたと思うので守備の確認をしていきたい。相手は強い学校だが、諦めずに自分たちの野球をして戦いたい」と熱意を見せた。